

「神のかたち」 で生きる 霊性入門

連載

5

池田モース優美

いけだ・モース・ゆみ（二〇一九年、米ハイオラ大学タルボット神学校
パストラルケア&カウンセリング修士課程修了。セカンドレベルミニ
ストリー、ソウルケア部門ディレクター。クリスチャンの霊性、精神的支
援のほか、霊的虐待、カルト化教会被害者の回復支援を行っている。

自分の頭で考えなさい——師匠からの教え

前回は、私たちに与えられた神のかたちの一部である「願い」について考えました。今回は、私の信仰の師匠、國光幾代子先生から頂いた信仰の知恵をご紹介します。

國光先生（故人）は私が卒業したインマヌエル聖宣神学校の女子寮監を長年務め、メソジスト教会の牧師として数多くの牧師、献身者、教会員、求道者を指導・育成されました。私が出会った時、先生は八十八歳。私は二十三歳で、信仰をもって三年目でした。先生が亡くなるまでの十年間、私は先生から多くの霊的な指導、遺産を頂きました。

これからご紹介するいくつかのことは、きつとみなさんの信仰生活をかたちづくる手がかりになると信じています。

「自分の頭で考えなさい」

な、いのちが通っている存在として、また神の被造物として、完成された姿に近いと私は思います。立場や学歴、信仰年数は関係ありません。神があなたに何と語りかけているのか。神があなたに与えた良心と生きておられる聖霊を信じ、自分の感性に自信をもち、自分の頭で考えてみてください。

信仰の穴開きごみ袋

私が周囲にいろいろなことを言われて大変だった時、先生は次のように言われました。「信仰のごみ袋」を持ちなさい。それには穴が開いていなくてはいけません。「穴ですか？」と私。「そうです。穴開きごみ袋です。いろいろなことを言う人がいるでしょう。そうしたら、『はい、承りました』と言って一度『ごみ袋』に入れます。袋には穴が開いていますから、言われたことは穴から落ちてどこかに行きます。それでいいのです。相手はこちらの『聞いている』という姿勢で満足しますから、問題ありません」

「真面目に聞けばかりが能ではない」と学んだ瞬間でした。

「ためていたら、腐ります」

私が愚痴ばかり言っていた時のこと。「いつも愚痴ばかり言ってますみません」と私。「いいのです。きちんと出すほうが良いのです。」

「あなたがたの愛が、知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、大切なことを見分けることができますように」(ピリピ 1:9、10)

私は大学卒業後、すぐに神学校に入学しました。非キリスト教環境で二十歳まで育った私にとって、キリスト教世界の考え方、文化には外国と同じくらい隔たりを感じました。キリスト教会、神学校とはいえ、聖書的なもの、文化的なもの、人間的なもの、罪の影響を受けたものも混ざっているという考えに至るには、また時間が必要でした。

私はよく、先生の所で泣きながら愚痴を言っていました。人生経験も信仰年数も浅い私には納得できない神学校の習慣があったり、人間関係で良心が痛んだりすることがあって、当時はうつ病寸前でした。

臭いものをなかつたようにして蓋をすると、もっと腐って悪い臭いを出します」

「隠すよりも、正直であるほうが良い」。自分自身の心の声を、きちんと理解する大切さを学びました。

「第一直感を大切に」

先生は判断が明確で早い方でした。判断の基準を聞いた時に教えてくださったこと。「第一直感を大切にしなさい」「聖書とか信仰とかではなくっ」と私。「もちろん大切です。しかし、迷ったら自分の直感を大切にしなさい。何かを教えているのです」

「聖霊が働いて教えてくれる。自分の感性を大切にしなさい」という意味なのだと思います。時間の猶予がなかったり、判断に迷ったりするときに役立つ基準です。神によって培われている自分自身の感性と選択に自信をもちましょう。

「全て自分の考えだと思ふ必要はありません」

悪い考えや誘惑が心に浮かぶときの対処の仕方です。「どうして自分はこんなことを考えるのだろう、こんなに汚いことを思うのだろう」と悩む必要はありません。サタンの投げることはにいちいち反応しなくてもよい。「サタンよ、下がれ」と言って相手にしな

先生は「自分の頭で考えなさい」と言い、聖書箇所をいくつか開いてくださいました（エペソ 5:10、1テサロニケ 5:21、ピリピ 1:9、10）。

「自分の頭で考えなさい」ということは衝撃でした。なぜならそれまでずっと、信仰者の模範とは「従うこと」だと教えられてきたからです。「自分の考えや判断をもて」という指導は受けたことがありませんでした。

神は私たちを、自分自身の目で、感性で、信仰で良いものと悪いものを判断するよう創造されました。生きた信仰をもつことは頭を使うことであり、時に痛みや間違いも発生します。それは決して完璧ではないかもしれませんが、それは決して、悩むことそのものが、神に与えられた可能性を忠実に生きているということだと思ふのです。人としての全体性（バランスのとれたあり方）として、有機的

い。それだけで良いのです。そのたびにみこばを心で唱えなさい（参照：イヨハネ 1:7）」

「授業料だと思いなさい」

自分の不注意で車を大破させ、経済的・精神的な痛手を負ったことがありました。とても落ち込んでいた時に教えてくださったことばです。マイナスでしかない経済的、時間的、精神的、肉体的ダメージを、前向きな視点に変えてくれた一言でした。みなさんの失敗も、「授業料」になる日が来ます。

「謙遜でありなさい」

神学校を卒業した時、先生から頂いたことばです。「神は傲慢な器は用いられません。謙遜でありなさい」。先生の教えはユーモアがあり、実践的でした。國光先生自身が指導を受けた牧師から教わったという教えもあります。軍国主義と二度の世界大戦を生き抜いてきた世代の教えです。

クリスチャンは、ただ真面目で善良、だまされやすい羊である必要はありません。賢くたくましく、ユーモアをもち、魅力的にキリストの姿を現すことができます。

◇
いかがでしょうか。今回ご紹介した知恵が、皆様の中に魅力的なキリストの姿をかたちづくる手がかりとなれば、幸いです。